タイEV覇権と2027年の期限

電池材料関税免除延長の戦略的意味合い – 2026年2月版

ゼロ関税の延長は恒久的な状態ではない。現地化時代への2年間のカウントダウンである。

NotebookLM

ASEANの要衝を確保するための2年間の猶予

現状 (Situation)

タイは**サプライチェーンの未熟さにより「EVハブ」の地位防衛に苦戦。**「30@30」目標は、輸入部材の高コスト構造により危機に瀕している。

→

決定 (Decision)

政府は**重要電池材料の関税ゼロ措置**を2027年末まで**延長。**コスト格差を埋めるための「現実解」としての妥協措置。

→

戦略 (Strategy)

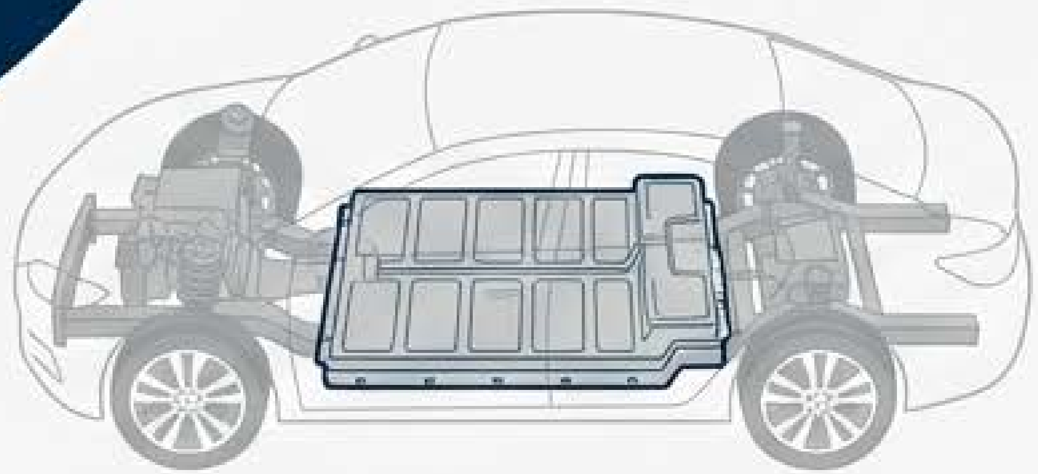
日系企業は時間軸を分けた**二段構えの戦略**が必要。

- **Now - 2027:** ボーナスタイム（輸出最大化）
- **2028 Onward:** 現地化時代（JV・現地生産）

NotebookLM

「アジアのデトロイト」を死守するタイの執念

ZEV生産比率目標
（30@30政策）



目標（Goal）

2030年までに自動車総生産の30%をZEV化する。

必須条件（Requirement）

EVの心臓部である「バッテリー」の国内生産は不可欠。

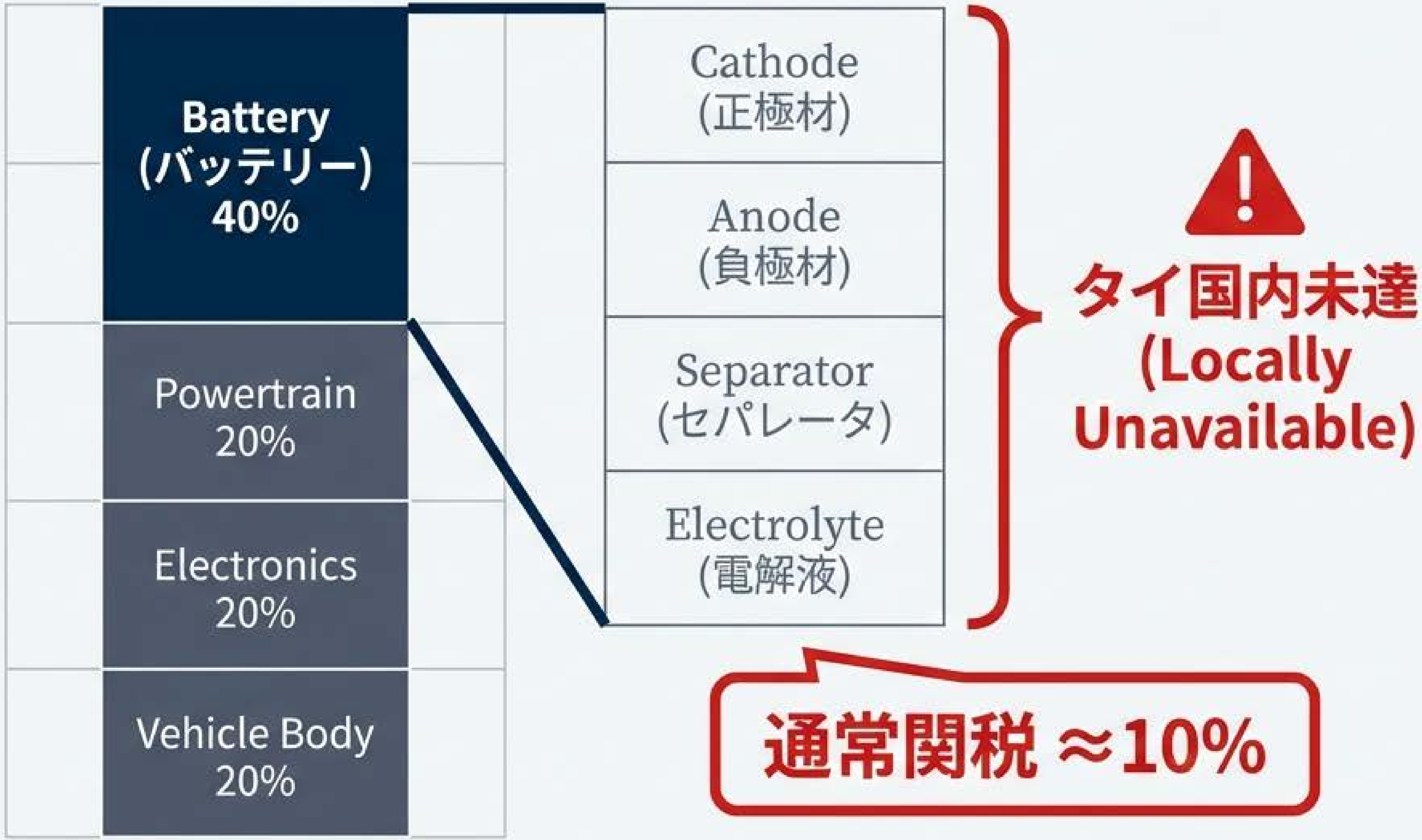
リスク（The Stakes）

達成できなければ、よりサプライチェーンの整った国へ生産が移転し、**産業空洞化**を招く恐れがある。

NotebookLM

未熟なサプライチェーンが生む致命的なコスト差

EV Cost Structure (Estimated)



Noto Sans JP

課題: 上流部材の現地調達が困難。

影響: これらを輸入に頼ると、10%の関税が上乗せされ、中国からの完成品輸入に対して価格競争力を失う。

結果:
完成車メーカーは現地生産を躊躇する。

NotebookLM

現実的な妥協策：産業界への「つなぎ融資」

- **政策:** 2027年12月31日まで、必須原材料の輸入関税を免除。
- **政府の論理:** 地場サプライヤーが育つまでの間、中国勢 (CATL, BYD) に対抗するため、一時的に輸入に頼ることを許容する「生命線」である。

NotebookLM

2028年の分岐点が求める「二段構え」の戦略

2027
Deadline

2026 –2027

2028+

Phase 1: 輸出の時代
(The Export Era)

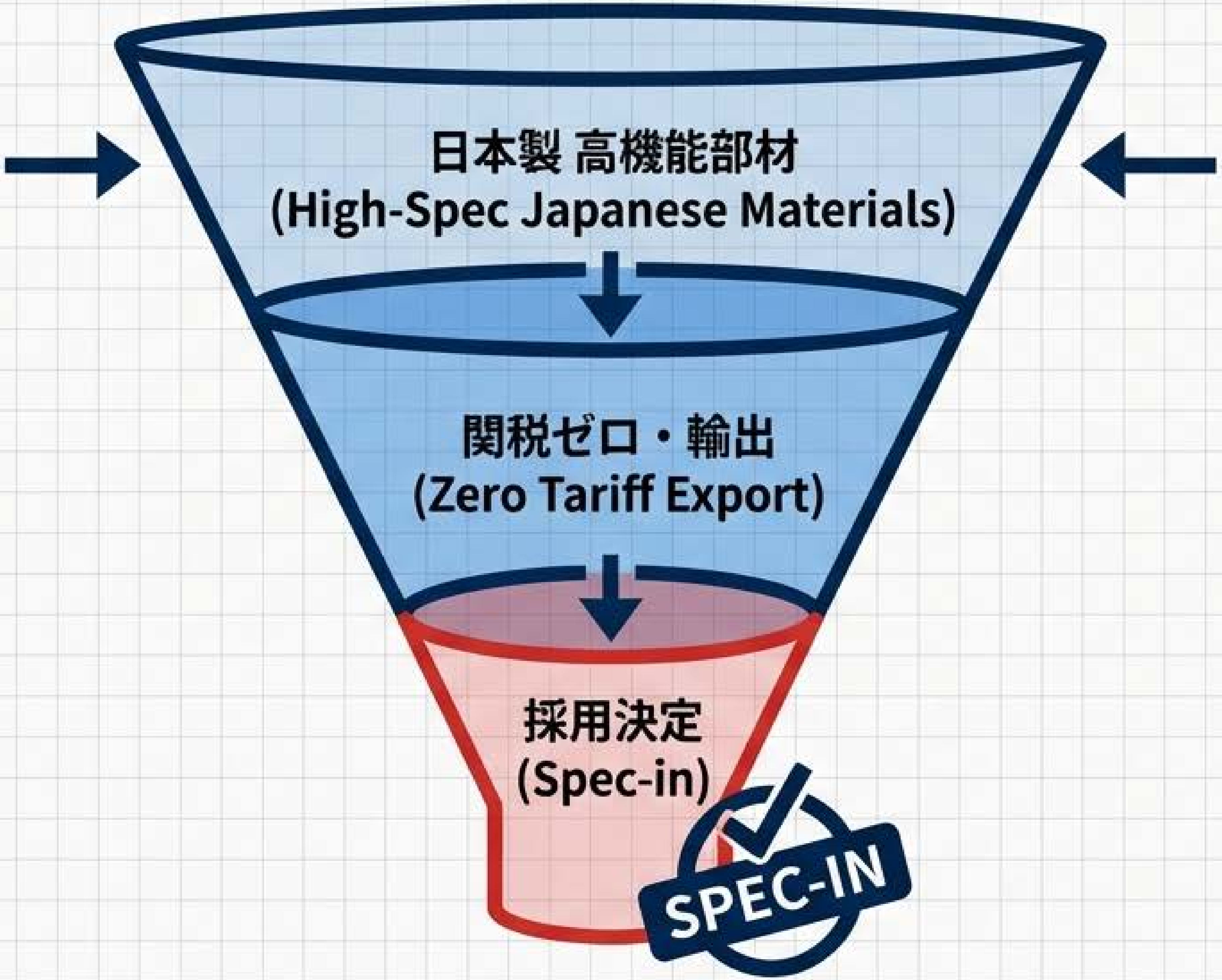
ボーナスタイム。関税ゼロによる
高機能部材の輸出攻勢。

Phase 2: 現地化の時代
(The Localization Era)

保護主義の復活。関税再開または
ローカルコンテント規制の強化。

NotebookLM

Phase 1 (Now-2027): 「スペックイン」を勝ち取る



市場背景

- タイ国内の中国系バッテリー工場が稼働開始。高品質部材への需要が急増中。

戦略的必須事項

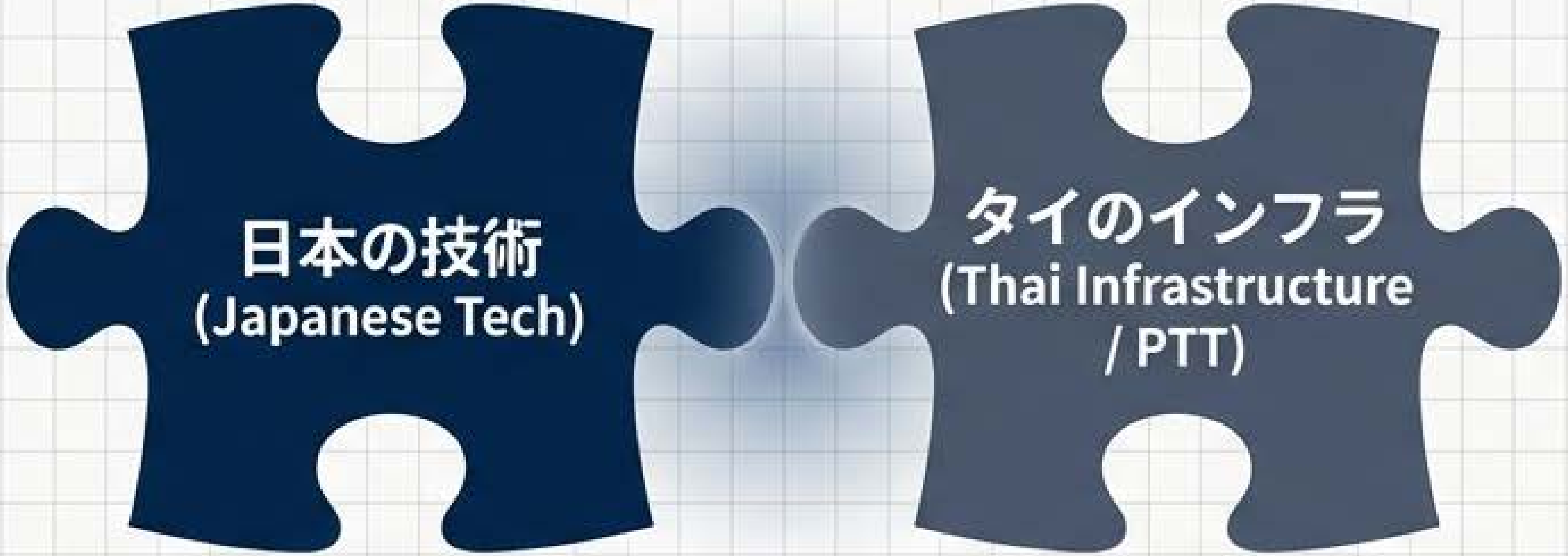
- 今のうちに商流を確保する。一度スペックインされれば、代替は困難になる。

Action

- この2年間で不可欠な存在(Indispensable) としてサプライチェーンに食い込む。

NotebookLM

Phase 2 (2028+): 関税の壁の復活に備える



予測

- 2028年、関税免除は終了し、現地調達要求（Local Content）が厳格化される可能性が高い。

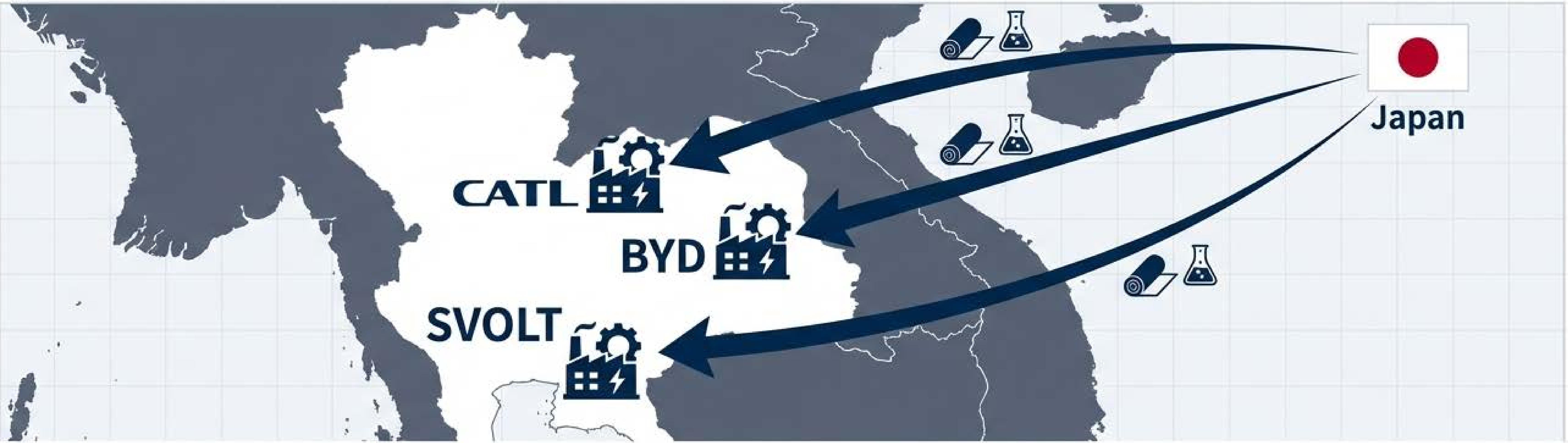
アクション

1. 今のうちから現地生産計画を策定。
2. 現地エネルギー大手（PTT等）との合弁（JV）を模索。
3. 直接輸出が困難になる場合に備えたライセンスモデルの検討。

警告: 2028年になってから検討しても手遅れである。

NotebookLM

EV戦争における「武器商人」としての日本



競合の動き

- 中国メーカーは既に工場を建設し、今回の関税引き下げの最大の受益者となっている。

日本の役割

- 我々は最先端の上流部材を供給する。

戦略

- バッテリーメーカーが中国系であっても、その中身 (Chemistry) は日本製であり得る。ゼロ関税期間を利用して、中国資本・タイ製バッテリーの中に**日本の技術を埋め込む**。

NotebookLM

これは休暇ではない。2年間の準備期間である。

- ✅ コスト削減 (Cost Reduction)
- ✅ スペックイン獲得 (Secure Spec-in)
- 🔄 現地化準備 (Localization Prep)

- **結論:** 今回の延長措置は、タイ政府が自動車産業を守るための防衛策である。
- **Call to Action:** 2028年以降のASEAN市場での勝敗は、この24ヶ月を単なる「輸出ボーナス」として過ごすか、「現地インサイダー」になるための準備期間として使うかにかかっている。

NotebookLM